

カルメル

靈性センターニュース



2023年5月

397号



# 目次

目次	1
心の泉	3
カルメル会の企画案内	23
東京	24
キリスト教放送局 FEBC のご案内	27
京都	28
諸所の企画案内	31
通信深読お申込みのご案内	36
郵送お申込みのご案内	37



# 心の泉



宇治カルメル会修道院



## 第三卷

### 第五十四章 肉と恵みとの相反する働き

#### 8 肉に勝つ

神の恵みは、超自然的な光、神の特別な賜物であり、選ばれた者のしるし、永遠の救いの保証である。またそれは、地上のことから天への愛に人間を駆け上がらせ、肉の者から霊の者に変わらせる(エフェソ2・8、1・14 参照)。つまり、肉に勝てば勝つほど、神の恵みは大きくなり、日々の新しい訪れによって、内的な人間が神の姿に沿って完成するのである(コロサイ3・10 参照。))

### 第五十五章 肉の墮落と神の恵みの結果

#### 1 子

《あなたにかたどって私を造られた主なる神よ(創世記1・26 参照)、救いに必要な偉大なものと示されたその恵みをお与えください。罪と滅びに引きつけるこの汚れた肉に勝つためです。私の肉体のなかには、「精神の法則」に反し、感覚に服従させようとする「罪の法則」(ローマ7・23 参照)があるのです。私の心にそそがれる至上の恵みに保護されなければ、私は肉の欲に抵抗できません。

#### 2 恵みの必要性

罪に傾く肉に打ち勝つためには、あなたの恵み、大いなる恵みが必要です(創世記8・21 参照)。人間の本性は人祖アダムによって墮落し、以後罪によって汚され、その汚れの罰は全人類に染みこみました。こうして、あなたが、善いもの、汚れないものとして造られた人の本性は、悪となり、汚れた肉となりました。肉の欲をそのままにしておくなら、人間は、悪と俗世に引きつけられます。人間に残されたわずかな力は、灰の底に隠れている小さな火種のようなものです。この火は、人間の理性ですが、それは深い霧につつまれています。それは善悪を区別でき、本物と偽物を見分けることができますが、善を認めることを実行しきれず、真理に満ちた光もなく、心の愛情も健全ではなくなっています。

#### 3 私たちの弱さを助けてください

ですから、神よ「私は、霊の人に従う時、あなたの法則を喜び」(ローマ7・22)、あなたの掟が善であり、義であり、聖であることを知り、すべての悪と罪とを避けなければならないことを知っています。しかし不幸にも私の肉体は、罪の法に従い、理性よりも邪欲に引きずられるのです。「悪よりも善をおこないたいという意志はあっても、それを実行する力がないのです」(ローマ7・18)。いろいろ善いことをおこなおうと決心しても、弱さを助ける恵みがないので、最初のさまたげに負けて退き、失望して倒れます。同様に私は、完徳の道を知り、おこなうべきことも知っていますが、墮落した肉の重さに押されて、より完全なもの目指して上がっていけないのです。

新緑が目にしみる季節となりました。5月はマリア様の月です。  
13日には「微笑の聖母」と「ファチマの聖母」の執り成しを特別に思い起こします。テレーズの不思議な病を癒された微笑の聖母（今年は140周年）、1981年教皇パウロ二世へ向かう銃弾の軌道を急所をはずれるよう導かれた「ファチマの聖母」。



聖母には、「お愛する」聖母がいらっしゃいません。  
その点、私たちより聖母は幸せではありません。

テレーズ最後の言葉 125

5月17日 テレーズ列聖記念日

私の使命がはじまろうとしています。  
私が愛しているように、  
人々に神さまを愛してもらい、  
私の小さい道を人々に示す使命が。 テレーズ最後の言葉 85



5月28日 聖霊降臨の主日

生まれつきの素質が何であろうと問題ではない。  
最も重要なのは、聖霊にとらえられ、  
この愛の霊によって変容されることである

福者マリー＝ユージェヌ神父

私たちはそれぞれの眼鏡を通して現実を見ています。  
それがとても大切であるように思います。  
そして、そこにこそ将来のすべてがあると信じています！ああ、私たちの聖性の夢！  
ところが大切なのは柔軟性、すべてである聖霊に心を開いていることなのです。

「神と親しく生きる いのりの道 福者マリー＝ユージェヌ神父とともに」 聖母文庫

伊従 信子 (いより のぶこ)  
ノートルダム・ド・ヴィ

## 創造主への賛美（64）

くのり  
九里 彰

リジューの聖テレジアの「小さい道」は、「大きくなる」道ではなく、「小さくなる」道であり、キリストの言葉で言えば、「心の貧しい者」（霊において貧しい者）となることであった。この貧しさは本当の謙遜、すなわち、自分には何も誇るものはないということを中心悟ることにより、前回は、それが、「信仰の世界」に入ることであると考えた。

小さい者であるとは、自分が何かできるような気になって、実行した徳を自分に帰さないで、かえってこの徳の宝は、天主様が、必要に応じて使えるように小さい子供の手の中に置いてくださったものであると認めることでございます。実際、徳の行い、それはいつも天主様ご自身の宝でございます。（『最後のことば』105）

同じようなことを、『自叙伝』のプロローグでも言っている。

もしも、小さな花が口をきくことができるならば、その花は神さまが自分のためにしてくださったことを単純に語り、いただいた恵みを隠すようなことはしないでしょう。……これから自分の生い立ちを話そうとする花も、イエスさまのほうから先に、まったく“ただ”でくださった多くの恵みをお話することを喜んでいます。この花は、自分のうちには神さまのまなざしを引きつけるものは何もなく、自分のうちにある良いものは、みな主の憐れみの業だけであるとよく知っています…。

このような「小さき花」にこそ、「創造主への賛美」が真に可能となる。自分を誇ろうとする気持ちがある限り、その賛美は本物とはならないだろうから。テレジアは、さまざまな人間がいることについて、こう言っている。

イエスさまは、この神秘について教えてくださいました。主は、私の目の前に大自然の本を開かれました。それで、主が造られた花はどれもみなそれぞれに美しく、バラの輝くような美しさも、ユリの清らかな白さも、小さいすみれの香りやひな菊のかわいらしいあどけなさを、そこなうものではないと悟りました…。また、もし小さい花がみなバラになりたいと思うならば、自然は春の装いを失い、野山にはもう色とりどりの花が咲き乱れることがなくなる、と悟ったのです。



## 十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (179)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### 十字架のヨハネの情景

それはもっと単純ですが、聖フランシスコの話を思い起こさせます。

それについて、今回だけでなく、他の多くの機会にヨハネ修士の旅に同伴したマルティン修士が物語っています。

(列福) 裁判の供述において、マルティン修士は、こう言っています。

「…くだんの聖人の愛といつくしみはとても大きかったので、神の愛のために、殉教や苦難を耐え忍ぼうとしていました。彼はそのようにできるあらゆる機会に、そう努めていました。私たちの主は彼に血の殉教者となることを許さず、苦難の殉教者となることを望まれたと言っていました。また主なる神のために耐え忍んだあらゆる苦難によって、聖なる殉教者たちが獲得した報いを、それほどうらやむことはなかったと言っていました。

聖人は、これらのことについて話題にし、多くの一般信徒や修道者たちに話しました。苦難と悲しみの内にあった彼らは、彼に慰めを求めて来たのですが、くだんの聖人の言葉に感動し、とても慰められ、大いなる熱情と、多くの苦難と悲しみを耐え忍ぶ勇気をもって、帰るのです」。

このような発言を確証するように、聖ヨハネのこぼれ話と呼ぶべきものがあります。マルティン修士は、こう言っています。

「またこの証人（訳注：マルティン修士のこと）は、ハエン市からブラランセへ、くだんの聖人と歩いて行った時、彼はこの証人にこう言いました。

—今、何人かの敵が私たちをひどい目にあわせるために現われ、私たちをひどく殴りつけ、ほかにもひどいことをしたとしたら、あなたはどうしますか？

この証人は、次のように答えました。

—私たちの主なる神のお恵みによって、忍耐できますように。

(続く)

(P. 九里訳)

## 復活節 第5主日 (A)

(ヨハネ 14 : 1 - 12)

「わたしは道であり、真理であり、命である。

わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことはできない。」

復活節第5主日の三つの朗読を通して、共同体における思いやりと心くばりに関する美しいテーマが流れています。これは初代教会を特徴づけています。第一朗読は孤児や、やもめたちに必需品を分配するという実務的な配慮に関することです。使徒たちは、自分たちは宣教に専念すべきと感じました。分配を行うために執事が選ばれました。第二朗読では、祭司職に相応しい全てのキリスト者は、共同体の奉仕に呼ばれているということです。この人たちは、洗礼により聖別されています。全ての人が神を崇め、他の人たちを助けます。

聖ヨハネの福音では、愛する使徒たちへのイエスの気づかいがはっきり示されています。福音の最初の箇所では、人たちのために戻って来ることを目指しています。トマスとフィリポからの質問が、イエスに気づかいのメッセージを宣言させます。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことはできない。」

そうです！イエスは神への最も確かで、最も安全な道です、イエスは神からおいでになり、私たちが天の御父に導くことができになるからです。イエスは真理です、イエスは私たちに神の全ての真理を明らかにする唯一の御方だからです。神は愛であり、慈しみ深く、憐れみ深い御父です。三位一体の神は、洗礼を受けたそれぞれの人の中に生きておられます。イエスは真理です、人類に対する神の愛をその命と死を通して示し、真理への証拠を耐えたからです。イエスは神の御子としてご自身の中に永遠の生命を持っておられます。イエスは、私たちに聖霊のうちに新しい命を与えてくださいます。イエスはまた秘跡を通して神の命を分け与えてくださいます。

私たちは、私たちの道であるイエスに従うように、私たちの真理であり命であるイエスを抱きしめるように、私たちの生命であるイエスにおいて成長するように、招かれています。私たちは神にもっと近づき、他の人がもっと神に近づけるように手伝う必要があります。これは私たち兄弟姉妹に対する私個人の貢献となるでしょう。

(Sr. Paulina)

## 復活節 第6主日

(ヨハネ 14 : 15-21)

今日の福音は、先週の福音箇所続き。イエスは最後の晩餐の後で、キドロンの谷の向こうの園で裏切られて逮捕されるまでの間に、弟子たちに様々な話をなさいました。今日の箇所では、新共同訳の見出しにもある様に、「聖霊を与える約束」をされました。

イエスは冒頭で「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。」と言われます。そして今日の箇所の最後では「わたしの掟を受け入れ、それを守る人は、わたしを愛する者である。」とも言われます。

イエスを愛しているならば、自発的に積極的にイエスの掟を守り、そしてその人は言うまでもなく、イエスを愛していることになるでしょうね。イエスの掟とは何でしょうか。それは以前言われた様に「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。ということです。愛に生きる人はイエスを愛し、イエスもその人を愛しておられます。

天の御父は私たちの救いのためにイエスをお遣わしになりましたが、そのイエスは間もなく逮捕され、十字架につけられ亡くなる一弟子たちの前からいなくなるのですが、愛する者たちのため、亡くなる前に、天の御父にお願いして、別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにして下さる。という言葉を残して下さいました。

またさらにその言葉だけではなく、わたしは、あなたがたをみなしごにしておかない。あなたがたのところに戻って来る。との言葉も残されました。父なる神は、イエスは、どれほどわたしたちのことを愛しておられることでしょうか。心に留めたいと思います。

神が約束されたことは必ず実現します。別の弁護者、真理の霊、愛の霊、「聖霊」が、私たちのところに来てくださいます。典礼の暦は、再来週に聖霊降臨を迎えるのですが、現実には既に私たちのところに、父と子と聖霊の聖霊がおられます。私たちのところに来て下さっている聖霊とともに、神の愛を思いながら、聖霊降臨へと向かって私たちの歩みを進めてゆきましょう。イエスが愛されたように、互いに愛し合いながら・・・。

(Fr. 古川利雅)

## 主の昇天 (A)

(マタイ 28 : 16 - 20)

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」

主の昇天の祭日は、キリストに対する神のご計画の頂点です。イエス・キリストは、地上でご自分の使命を果たし、御父のもとに帰られます。昇天は、私たちの救いのための言葉と行いを通じた教えとわざの完成です。今、イエスは栄光のうちに御父と共におられ、聖霊のうちに私たちと共におられます。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

イエスは弟子たちから離れる前に、彼らに教え、最後の勧告を与えました。イエスは、弟子たちに普遍的な使命を与えられました。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい」。弟子たちはイエスのこの言葉に励まされ、イエスの命令に従って、イエスのすべての教えを言葉と行いによって教えました。自分たちの生きざまを通じてキリストの証し人となり、天の国の福音を告げ知らせたのです。そして洗礼を授け、病気を癒し、各地で人々を弟子にしました。弟子たちは大勢の人をイエスへの信仰の道に導きました。弟子たちは、キリストの約束に忠実であり続けます。イエスも、この地上でキリストのわざを続ける弟子たちと共におられます。

主の昇天は、教会における私たち自身の使命も思い起こさせます。つまり、「行って」、福音を民に告げ知らせることと、人を愛し、人に仕え、キリストの言葉を証しすることです。私たちの兄弟姉妹の生きている顔のうちにイエスご自身と出会うことでもあります。迫害や危険にさらされて、時には殉教しながらも、主の福音を告げ知らせているあらゆる宣教師たちや善良なキリスト者の存在に、神に感謝しましょう。

*(Sr. Paulina)*

## 聖霊降臨の主日

(使徒言行録 2 : 1 - 11)

今日読まれる使徒言行録の箇所は、創世記 11 章 1 - 9 節のバベルの塔の出来事の回復とも言われることがあります。その回復のあり方はどのようなものなのでしょうか。

バベルの塔の話は、「世界中は同じ言葉を使って、同じように話していた」(11:1) から始まります。ここでの「言葉」(ダーバル) という語は、出来事や、仕事をも意味します。また、同じ思想、考え方と捉えることも出来るでしょう。その結果、彼らが思い図ったことは、「さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう(名をあげよう)。そして、全地に散らされることのないようにしよう」(11:4) ということでした。

バベルというのは、バビロンのことですから、当時バビロンに建てられていた高い塔、ジックラトが背景にあります。ジックラト建造には、ピラミッドと同じように、多くの奴隷が使われていました。彼らは、個性の違いは尊重されず、同じ「思想、考え方」(言葉) を強いられていました。その同じ思想(言葉) で、バビロンの王は自分たちの「名を高める塔」を造り、その塔(ジックラト) で、神々を礼拝していました。ジックラトは神々を礼拝する場でしたから、バビロニア語でバブ・イリ(神々の門)と言われることもあったそうです。

アブラハムの父祖はメソポタミアからやってきました。また、バビロン捕囚でバビロニアへ連行されたイスラエルの民も、その高度な文明を目の当たりにしました。バビロニアの人々にとっては「神の門」と言われる場も、聖書記者の目には、「神の門」建造の下でなされている個性埋没や、一つの思想を強いて違いを失わせることは、いのちの輝きを曇らせている「混乱」(バーラル) に他なりませんでした。

神は、このようなあり方を抱えている人類に対して、言葉をバラバラにさせ、全地に散らさせる裁きをなさいました。しかし、それは回復のためでした。

使徒言行録の記述には、全地に散らされたそれぞれの国の人々が、めいめい自分の生まれ故郷の言葉を聞いたとあります。決して一つの言葉が語られたのではありませんでした。それぞれの国で育まれてきた言葉、思想、文化が保たれ、その価値が大切にされ、輝かせる聖霊の働きが表されています。現代社会は相も変わらず、都市一極集中と地方の過疎化が進んでいます。変わらずバベルの塔へと進む大きな力があります。しかしその中でも聖霊は、それぞれの生まれ故郷の言葉(思想、文化) が大切にされ生かされるように働かれています。

聖霊降臨祭にあたり、違った個性を持った私たち一人ひとりのいのちが真に輝き、その中で一致できるように祈りましょう。

(P. 志村)

## 糸巻き棒からペンへ(86)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

私たちは、それらの植物が枯れずに、良い香りを放つ花が咲くよう、絶えず水をやり、成長するように世話しなければなりません。それはまた、私たちの主が、しばしば私たちの園にいらして、楽しまれ、くつろぐことがおできになるためです。

祈りを始めた人々は、井戸から水をくむ人のようです。それは、かなり骨の折れることで、その成果はとてもわずかです。感覚を集中するには苦勞しなければならぬのは本当ですし、これらの感覚は散漫となり、騒音に満ちた中にあることに慣れていて、それは実に大仕事なのです。

良い本を読み、読んだことを理性をもって熟考し、またキリストの生涯や自分自身を知ることや私たちの聖なる宗教などについて思いめぐらし、内的にも外的にも沈黙の内にとどまることに慣れていくことが必要です。このためにはたくさんの本があります。これらは、一週間、毎日の黙想の材料を提供してくれ、初心者にはとても助けとなります。

菜園に水をやる第二の方法は、巻き上げ機と水道管のあるノリア（水をくみ上げる機械）を使うことです。これによって、よりわずかな労力でずっと多くの水をくむことができます（私の父の家にはこのようなものが一つあったことを思い出します）。このような仕方の祈りを、私は「静穩の念禱」と呼んでいます。そこでは、靈魂の諸能力を自分の中へと潜心させ始めます。私たちの善であり、絶えず現存されるキリスト以外のものを見たり、聞いたりしないようにしながら、彼と共にいるよう努めなければなりません。あなたが悲しい時には、ある人々には迫害され、他の人々には否まれ、寒さに凍え、あなたがたは慰められるのに対し、まったく孤独に打ち捨てられて、十字架の道を歩まれる彼の姿を見なさい。そして彼は、あなたがたを慰めるためにあなたがたの罪を忘れられるほどに良い方なのです。

(P. 九里訳)

# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2023年3月18日

## イスラエルでカルメル在世会が新たに復興



約2年前、異なる文化を持つ信徒のグループがカルメル山のステラ マリスでカルメル在世会の創設について試案を重ね、自分たちで設立する準備を始めて、その手続きを問い合わせしていました。

そして一定の識別の期間後に、志願者の入会式が今年1月28日にわたしたちのステラ マリス教会で行われました。彼らは、聖書とカルメル在世会の会憲を授与され、カルメル山の乙女マリアのご保護の徴としてのスカプラリオを身に着け、公式の養成期間に入りました。彼らはこれから2年間にわたりカルメル会と教会における霊性と使命を学ぶことになります。

聖霊がここに召し出された彼らを護り、カルメル在世会で、彼らが心から望んでいる神との一致と教会への奉仕を探究し、忍耐をもって見出していけるように祈りましょう。

(訳・注:小宮山延子)

# いのちの言葉 5月

兄弟愛をもって互いに愛し、  
尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。」  
(ローマの信徒への手紙 12・10)

今月のみ言葉は、ローマの信徒に宛てた使徒パウロの手紙の中から引用されています。非常に豊かな内容の箇所です。ここでパウロは、愛に満ちたキリスト者の生活について触れています。そしてそれは、神が私たちの心に注がれた無償で限りない愛からくるものであり、この愛は、私たちを通して他の人々に与えられる愛だと語っています。パウロは、これをさらに明確にするために「philostorgos(フィロストルゴス)」（ギリシャ語）という言葉を用いて、キリスト者共同体のうちに見られる特有の愛について語り、それは「友人との間の愛」と「家族の間の愛」に特徴づけられるとしています。

兄弟愛をもって互いに愛し、  
尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。

ではここで、「兄弟愛」と「相互愛」について見てみたいと思います。パウロが言うように、キリスト者共同体の人々が互いに愛し合うのは、一人ひとりがキリストの体を形づくる一部分であり（12・5）、互いに愛し合うことその他、誰にも借りがあってはならず（13・8）喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣き（12・15）互いに相手を裁いたり躓かせたりしない（14・13）からです。

私たちの生活は、他の人々の生活と密接なつながりがあります。そのためキリスト者共同体は、イエスがこの地上にもたらした「愛の掟」の生きた証しとなるものです。それは、いのちを与え合うほどに多くを求められる愛であり、相手の善と幸せを願い様々な形で具体的に示される愛です。また兄弟姉妹が自己実現されるように支え助け合う愛であり、相手を尊敬し大切に作る愛です。さらに一人ひとりの必要に心を配り、誰をも置き去りにしないよう力を尽くす愛であり、また社会、文化、政治的な事柄にも積極的に責任ある行動を促す愛とも言えるでしょう。

兄弟愛をもって互いに愛し、  
尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。

キアラ・ルービックも語っています。「紀元一世紀頃のキリスト者共同体に目を向けてみると、あらゆる人々に広がっていったキリスト教の愛は、その当時特別な名前と呼ばれていました。それは兄弟愛を意味する『フィラデルフィヤ』と呼ばれていたのです。その頃の文献によると、『フィラデ



ルフィヤ』は、血のつながった兄弟姉妹の間の愛を意味する言葉としてのみ使われ、その他の人との関係を指す言葉として使われることはありませんでした。ですから、新約聖書だけが例外だったのです<sup>2</sup>。現代も多くの若者が、心と心の深い交わり、人と人との本物の関係を持ちたいと望んでいます。初期のキリスト者たちの間にあった相互愛には、その強さ、深さなど、本物の兄弟愛の特徴が、すべて備わっていたのです<sup>3</sup>。」と。

**兄弟愛をもって互いに愛し、  
尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。**

このような相互愛に生きる共同体は、自分たちの殻に閉じこもらず周囲の様々な課題にも向き合っていくようになります。

ハンガリー国籍のセルビア人 J. K. さんは、3人の子供の父親です。彼はやっと念願の家を購入しましたが、予期せぬ事故に遭い、自分でする予定だった家のリフォームも、体力的にも経済的にも難しくなっていました。それを知ったフォコラーレの共同体は、「一致した世界を目指す若者たち」が行っている“勇気をもって思いやる”というプロジェクトを活用して、J. K. さんを具体的に支援することにしました。

J. K. さんは、連帯の輪が広がり、「たくさんの方が手伝いに来てくれて3日間で屋根を新しくして、天井も石膏ボードに張り替えることができました」と、その様子を喜びのうちに語ってくれました。チェコ共和国からもリフォームのためにと人々から資金が届けられました。国境を越えて助け合う共同体の姿は、何よりも、目に見える愛の証しとなりました<sup>4</sup>。

**兄弟愛をもって互いに愛し、  
尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。**

パトリツィア・マッツォーラと「いのちの言葉」編纂チーム

\*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1 日本聖書協会『聖書 新共同訳』

2 キアラ・ルービック、フォコラーレの若者たちとの対話、チッタ・ノーバ誌、ローマ 1999,p. 58

3 同上

4 セルビアでの体験、www.unitedworldproject.org 参照

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812  
E-mail: tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

# カルメル誌 新刊案内



## 2023年 春号 No.388

《共に歩むーパンデミックの世界の中で》  
アビラの聖テレジアとシノダリティの一考察

松田浩一

カルメルの外のカルメル

ー教会の外から見られたアビラの聖テレジアと  
十字架の聖ヨハネ

鶴岡賀雄

苦しみの秘儀ーパスカルの

「病の善用を神に求める祈り」

釘宮明美

奉獻生活における心理学的知性と禁欲の靈性(1)

ウィリー・ソバ

日々の出来事の中で 神の靈は導く(5)

ーテレーズ生誕(1873~1897)ー五〇周年を迎えて  
伊従信子

風に吹かれて再び(3)

ー私のなかにキリストは生きているか

原 造

世界遺産、シャルトリューズ修道院の生活

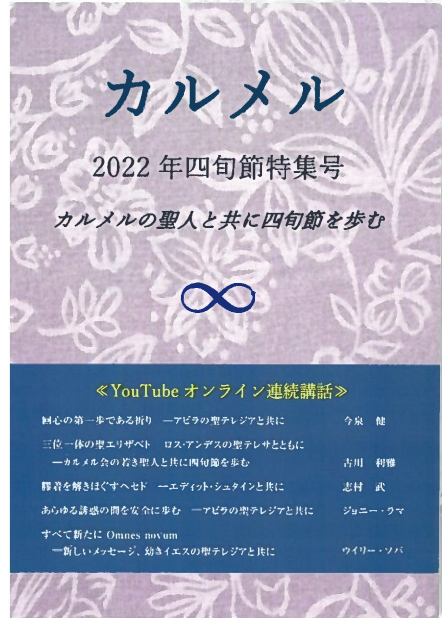
森 みさ

平和への道(1)

九里 彰

靈的研究会講義録(19)ー聖書・祈り・愛について

奥村一郎



## 2022年 特集号

カルメルの聖人と共に四旬節を歩む

回心の第一歩である祈り

ーアビラの聖テレジアとともに

今泉 健

三位一体の聖エリザベト

ロス・アンデスの聖テレサとともに

ーカルメル会の若き聖人と共に四旬節を歩む

古川利雅

膠着をときほぐすへセド

ーエディット・シュタインと共に

志村 武

あらゆる誘惑の間を安全に歩む

ーアビラの聖テレジアと共に

ジョニー・ラマ

すべて新たに Omnes novum

ー新しいメッセージ、幼きイエスの聖テレジアと共に  
ウィリー・ソバ

### ご案内

1冊 580円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・  
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を  
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.iimu@gmail.com

# 新刊紹介

## 聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話 II ロザリオの祈り



Chrysostomus  
小野崎良子 編

## ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた  
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

中川博道師  
(カルメル会)  
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です（教会憲章 53 番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神秘をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

教友社◎定価 (1,500 円＋税)

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

### 小野崎 良子(おのざき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック 宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

### ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

## 書籍紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



## 『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話  
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

# 愛と英知の道

— すべての人のための霊性神学 —

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳  
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

## 第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 哲 學（1）
- 第2章 哲 學（2）
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

## 第二部 対 話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なキリスト
- 第10章 英知と〈空〉

## 第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 〈愛のうちにある〉
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英 知
- 第18章 活 動
- 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を習得し、神学博士。東洋の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



# 書籍案内

## 生きる意味

### ●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

#### ———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
  - 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
  - 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
  - 4 脱原発の倫理／久保文彦
  - 5 何のために働くのか／神谷秀樹
  - 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
  - 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
  - 8 関係の倫理学／清水正之
  - 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
  - 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
  - 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
  - 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
  - 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



**第2版  
好評発売中!**

## 福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ  
を生き、体験し、確認した教えなのです。  
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの  
教えは現代の人々にも十分適応されます。  
また、神の命を伝え、実践的手段を示して  
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の  
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

### 神と親しく生きる いのりの道

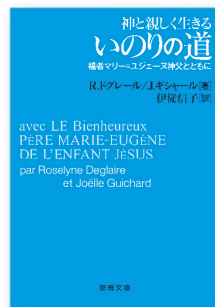
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



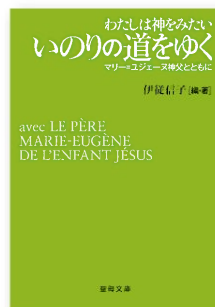
### わたしは神をみたい いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

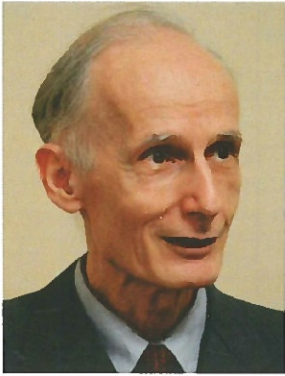
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

**聖母の騎士社** ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1  
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



# クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	<b>I 超越体験 一宗教論</b> 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	<b>II 真理と神秘 一聖書の黙想</b> 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	<b>III 信仰と幸い 一キリスト教の本質</b> 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	<b>IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論</b> 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	<b>V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践</b> 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

## ●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イェズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

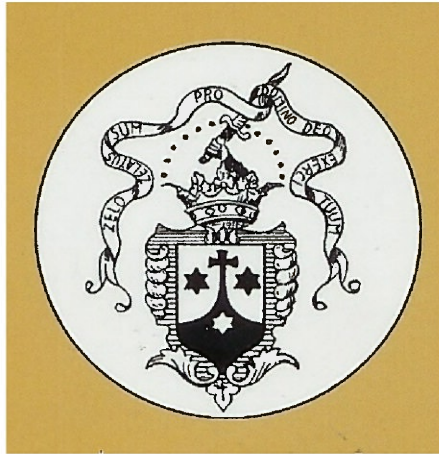
知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>



## カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

**Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum**

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



## 東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 \*\*上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) \*\*  
(2023年4月～)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

### 【聖週間】

聖木曜日から復活祭まで通して参加できます。またどの曜日からでも参加可能です。

~~2023年4月6日(木) 夕食～9日(日) 朝食 《講話なし、各食事つき》~~

### 【クリスマス】

2023年12月24日(日)～25日(月) 朝食 《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時～日曜日16時) カルメル会士

2023年

~~4月29日～30日~~

11月18日～19日

7月 8日～9日

2024年

9月23日～24日

2月24日～25日

- ・一日黙想会(水曜日10時～16時・昼食付) カルメル会士

《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》

2023年 ~~4月19日~~ 5月17日 6月21日 7月19日

9月20日 10月11日 11月15日 12月20日

2024年 1月17日 2月21日 3月20日

- ・聖書から学ぶキリスト教霊性入門(木曜日10時～16時・昼食付) 志村武神父

~~2023年 5月11日 7月6日 9月21日 11月9日~~

~~2024年 1月11日 3月7日~~ 中止

- ・一泊黙想会(土曜日16時～日曜日16時) カルメル会士

2023年

11月11日～12日

5月20日～21日

2024年

7月 1日～ 2日

1月13日～14日

9月30日～10月1日

3月9日～10日

- ・奉獻生活者のための黙想会(初日17時～最終日朝食) カルメル会士

2023年8月16日(水)～25日(金)

8月1日(火)～10日(木)

12月27日(水)～1月5日(金)

- ・ 青年黙想会 (男女) 35歳まで (初日16時～最終日16時) カルメル会士  
 2023年 5月13日(土)～14日(日)  
 2024年 3月23日(土)～24日(日)
- ・ 召命黙想会 (男女) 40歳まで (初日16時～最終日16時) カルメル会士  
 2023年 11月25日(土)～26日(日)
- ・ カルメル会召命黙想会(男子)40歳まで (初日16時～最終日16時)  
 カルメル会士  
 2023年 4月22日(土)～23日(日)―  
 7月22日(土)～23日(日)  
 10月28日(土)～29日(日)  
 2024年 1月27日(土)～28日(日)
- ・ 特別黙想会 (初日20時夕食なし～最終16時) Sr. 伊従信子(ノートルダム・ト・ヴァイ)  
 2023年 6月16日(金)～18日(日)  
 11月3日(金)～5日(日)



- \* 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- \* こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- \* 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

# 一日黙想会

テーマ：『カルメル会聖人に学ぶ黙想会』

\*毎月第三水曜日（8月はお休み）

\*10時～16時 3,500円（昼食付）

<2023年度開催予定日（2023年3月～2024年3月）>

2023年 3月15日—4月19日~~終了~~ 5月17日  
6月21日 7月19日 9月20日 10月11日  
11月15日 12月20日

2024年 1月17日 2月21日 3月20日

コロナの状況により中止となることもございます。  
当面は少人数(定員10名)での開催とさせていただきます。

\*当修道院司祭が交代で指導いたします

お問合せ・お申込み: 〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25  
カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

Tel: 03-5706-7355 Fax: 03-3704-1789  
E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

2023年 春夏  
2023.4~9

# 番組案内

AMラジオ放送  
インターネット放送

AM1566kHz 毎夜9:30~  
www.febcjp.com (毎日更新)

キリスト教放送局  
**FEB C**

日

夜9:30~



主日礼拝取材番組

全地よ 主を  
ほめたたえよ

- [第1]日キ教会 高知旭教会
- [第2]日基教団 小岩教会
- [第3]ホーリネス 東京中央教会
- [第4]日基教団 久万教会
- [第5]日基教団 石動教会



神からの  
メッセージ  
—グレゴリオ聖歌—  
橋本周子  
聖グレゴリオの家・  
宗教学研究研究所長

夜10:27~

月

[月~金] 夜9:30~

FEBCTODAY—今日の聖書・今週の讃美歌—

## 恵子の郵便ポスト

FEBメイン・パーソナリティー 吉崎 恵子



聴く 信仰  
「いのち」を  
をいただく  
御言葉黙想

夜9:48~

いちじく桑の  
木登り



—わたしの  
教理問答  
(再)



石居基夫  
福音ルーテル教会  
牧師、ルーテル学院  
大字字長  
お相手・吉崎 恵子

夜10:14~



主に向かって  
歌おう  
飯靖子  
日基教団聖南成教会  
聖歌隊指揮者・オルガニスト

夜10:28~



弱さを  
捧げる者と共に  
—Sr.阿の折りのエッセイ  
聖母の騎士修道女会会長

火

水

木

金

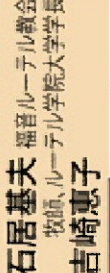
土



[第1]  
夜9:30~  
M・ルターの「み  
『キリスト者の自由』  
(再)



徳善義和  
福音ルーテル教会元牧師、  
日本ルーテル神学校名誉教授



石居基夫  
福音ルーテル教会  
牧師、ルーテル学院  
大学学長



吉崎恵子  
[第2]夜9:37~  
Echo of Voices



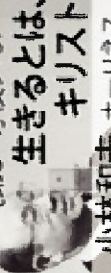
[第2]夜9:47~  
FEB C 特別番組  
「共に生きる」(再)



[第2]夜10:22~  
[新]  
十字架の道を  
共に生きる



[第3・4]夜9:37~  
生きているとは、  
キリスト



小林和夫  
ホーリネス  
東京聖書学院教会牧師



[第3・4]夜10:22~  
Meguro  
CCM insight!  
Genuine Grace ホーカル

夜9:30~

[新]  
一期一会の  
みことば



加藤智  
カトリック・  
さいたま教区司祭

夜9:53~

Kishiko  
の  
ひとりじゃ  
ないから  
コスベルシンガー



[第1~3]  
夜10:04~

コーヒー  
ブレイク・  
インタビュー

[第4・5]  
夜10:04~

交わりの  
ことば

夜10:31~

御心の響き  
服部みぎわ



## 宇治カルメル会 黙想会案内 (2023年4月～)

**【一般のための黙想】** 中川博道神父  
1泊2日 (土曜 午後5時～日曜午後4時)  
5:30 サルヴェ・レジーナ (修道院) から開始

5月20日～21日 7月22日～23日 9月2日～3日 11月25日～26日  
2024年  
1月20日～21日

**【聖書深読】** (土曜午前10時～午後4時) 中川博道神父

5月27日 7月1日 9月30日 12月16日  
2024年  
2月3日

**【水曜黙想会】** (午前10時～午後4時) 中川博道神父

4月26日 5月24日 6月28日 7月26日 9月20日 11月8日 12月13日  
2024年  
1月17日 2月14日 3月20日

**【カルメルの霊性】** (金曜午後5時～土曜午後4時) 松田浩一神父

カルメル山の聖母 7月14日～15日  
幼き聖テレジア 9月22日～23日  
アピラの聖テレジア 10月13日～14日  
十字架の聖ヨハネ 12月8日～9日

**【祈りの学校】** (木曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

4月13日 6月1日 7月6日 9月14日  
10月5日 11月2日 12月7日

**【祈りの学校 入門編】** (火曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

5月23日 6月27日

**【奉献生活者の黙想】**（午後5時～午前9時）一般可

8/1（火）～10（木） 中川博道神父  
11/12（日）～21（火） 中川博道神父  
12/27（水）～1/5（金） 中川博道神父  
2024年  
3/4（月）～13（水） 中川博道神父

**新企画**

**【男性のための黙想会】** 中川博道神父

5月13日（土）～14日（日）

11月22日（水）～23日（木）…22日は夕食を済ませ21時までにおいでください。

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間をお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）  
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191  
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp  
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

## 松田浩一神父（カルメル会）による黙想会

### 「祈りの学校」

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



すべて木曜日 10:00～16:00

~~4月13日~~ 終了 6月1日 7月6日 9月14日

10月5日 11月2日 12月7日

### 「祈りの学校 入門編」

すべて火曜日 10:00～16:00

5月23日 6月27日

持参するもの・・・筆記用具・ロザリオ

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

Fax 0774-66-1191（聖テレジア修道院（黙想）専用）

E-mail : [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)



## 諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター  
ノートルダム・ド・ヴィ  
サダナ瞑想  
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご照会下さい。  
よろしくお願い致します。

**テーマ 聖性への招き**

召し出してくださった聖なる方に倣って、あなたがた自身も  
生活のすべての面で聖なるものとなりなさい（1ペトロ1，15）

毎月第2木曜日（10:00～15:00）  
予約は前日の16:00まで

- 1月12日 励まし、寄り添ってくださる諸聖人（コデノッティ・クラウディオ神父）  
2月 9日 福者高山右近と日本の殉教者（コデノッティ・クラウディオ神父）  
3月 9日 十字架の聖パウロ（ソットコルノラ・フランコ神父）  
4月13日 マグダラの聖マリア（Sr. マリア・デ・ジョルジ）  
5月11日 聖シャルル・ド・フーコー（コデノッティ・クラウディオ神父）  
6月 8日 三位一体の聖エリザベト（ソットコルノラ・フランコ神父）  
7月10日 聖マクシミリアノ・マリア・コルベ（園田善昭神父）  
8月 休み  
9月14日 コルカタの聖テレサ（Sr. マリア・デ・ジョルジ）  
10月12日 幼きイエスの聖テレーズ（コデノッティ・クラウディオ神父）  
11月 9日 聖ガイド・マリア・コンフォルティ（コデノッティ・クラウディオ神父）  
12月14日 聖フランシスコ・ザビエル（コデノッティ・クラウディオ神父）



・個人またはグループでの黙想会  
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186

# 講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、  
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を  
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を  
当会のHPに掲載いたしますので、  
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

\*\*\*\*\*

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail [notredamedevie.japan@gmail.co](mailto:notredamedevie.japan@gmail.co)

# サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
入門 B	5/28(日) 9:30-17:00	同上	援助修道会 リヒト宣教室 (市ヶ谷)	来間(くるま) 裕美子※ Tel:090-5325-2518 sadhana12378@ yahoo.co.jp
沖縄 フォローアップ	6/1(木)9:00- 6/2(金)18:00	同上	沖縄県内施設 (申し込み受付にお問 合せください)	佐藤芳樹 Tel:080-3188-6573 jonah3295@gmail.com
沖縄 I & アドバンス	6/3(土)9:00- 6/4(日)18:00	同上		
名古屋入門 B	6/11(日) 9:30-17:00	同上	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子 Tel:050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
入門 C	6/25(日) 9:30-17:00	Fr 植栗	援助修道会 リヒト宣教室 (市ヶ谷)	来間(くるま) 裕美子※
フォローアップ	7/2(日) 9:30-17:00	同上	シャルトル聖パウロ修 道女会九段修道院	来間(くるま) 裕美子※
名古屋入門 C	7/9(日) 9:30-17:00	同上	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター	攪上(かくあげ)暁子
宝塚 フォローアップ	7/13(木)17:00- 15(土)16:00	同上	女子御受難会修道院 (宝塚市売布山手)	西村優子 090-8480-2661
宝塚 I & アドバンス	7/16(日)9:00- 17(月・祝)16:00	同上		西村不在時 野 真理子 090-6758-3369

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel & Fax : 042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナIを終えていること。

●入門Cへの参加…入門Aまたは入門Bを終えていること。



## 念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14：00～16：00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

### 中止のお知らせ

#### 2023年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は、コロナウィルス感染のため、開催を中止しております。秋口からの再開を予定しておりましたが、いまだ感染の終息が見えない状況の中、今しばらく中止させていただきます。

再開する場合は、この紙面上にて再度お知らせいたします。

連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com



## 朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

### ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

### セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

### サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のもものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

### フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

\* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

\* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

\* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

# 『靈性センターニュース』

## \* 郵送お申込みのご案内 \*

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。  
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、  
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座  
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184  
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、  
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。  
また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。  
その場合は、「献金」とご記入お願い致します。  
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」  
Tel:0774-32-7456  
Fax:0774-32-7457  
[reisei@carmel-monastery.jp](mailto:reisei@carmel-monastery.jp)

## インターネットから読める様になりました

『靈性センターニュース』バックナンバーを  
宇治カルメル会のホームページに掲載してます。

PC版のみ PDF形式

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」をクリック

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

